

九州大学
大型計算機センターニュース
No. 430

1990. 12. 5

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室

目 次	
1. 年末年始のサービス業務について	1
2. 大学間ネットワークサービスの停止について	2
3. TSSにおける一時データセット名の指定について	2

1. 年末年始のサービス業務について

このことについて、次のとおり計算サービス等を一時停止しますのでお知らせします。

- 1) 計算サービスの一時停止
平成2年12月27日(木)～平成3年1月6日(日)
なお、1月7日(月)からは通常どおり計算サービスを開始します。
- 2) プログラム相談の一時停止
平成2年12月27日(木)～平成3年1月7日(月)
なお、1月8日(火)からは通常どおりプログラム相談を開始します。

(システム運用掛 内線2517)

2. 大学間ネットワークサービスの停止について

学術情報ネットワーク拡充作業のため、これによる大学間ネットワークサービスを下記のとおり停止します。

記

期 間 平成2年12月24日(月)～12月26日(水)

(ネットワーク掛 内線2543)

3. TSSにおける一時データセット名の指定について

11月26日(月)からTSSで一時データセット名の指定が可能になりました。一時データセット名の指定はALLOCATEコマンドのTEMPDSオペランドで行います。TEMPDSオペランドを指定した一時データセットには、次のような特長があります。

- (1) 一時データセットを複数のDD名で同時に割り付けて使用することができる。
- (2) 領域の大きさに制限がない。
- (3) アクセス速度が保存データセットより速い。

使用例)

一時データセットWORKDSをDD名FT01F001とFT02F001に同時に割り付けて使用する。

```
ATTR DCB LRECL(255) RECFM(V B) BLKSIZE(23440) DSORG(PS)
ALLOC F(FT01F001) TEMPDS(WORKDS) NEW SPACE(10 5) TRACKS USING(DCB)
ALLOC F(FT02F001) TEMPDS(WORKDS) OLD
```

一時データセット名は先頭が英字の8文字以内の単純名を指定してください。なお、一時データセットは、FREEコマンドまたはLOGOFFコマンドを発すると自動的に消去されます。

FREE TEMPDS(一時データセット名)

(システム管理掛 内線2518)